

自然に着目した幸福度に関する研究

神田陽¹・田中一成²

¹学生会員 大阪工業大学大学院 工学研究科 建築・都市デザイン工学専攻（〒535-8585 大阪府大阪市旭区大宮五丁目十六ー一，E-mail: m1m21104@st.oit.ac.jp）

²正会員 大阪工業大学 工学部（〒535-8585 大阪府大阪市旭区大宮五丁目十六ー一，E-mail: kazunari.tanaka@st.oit.ac.jp）

幸福度に関する研究は近年で増加傾向にあり，工学的に用いようとする試みが既往研究でも数多く確認できる．しかし幸福度の要因の一つとされることの多い自然環境は非常に曖昧な指標であり，具体的に示されている研究は数少ない．そこで本研究では，自然に着目し，幸福度との関係性について調査・分析をおこなった．その結果居住地によって異なるイメージを持ち，この違いが幸福度に影響を与えていることが分かった．

キーワード: 幸福度, 自然, 都心部

1. はじめに

(1) 研究背景

幸福度とは何か，どんなものなのか，について古代ギリシャ以来，多くの哲学者や思想家達の間で議論が進められてきた．現代では心理学や経済学などでも幸福度について議論がなされており，また，わが国でも幸福指数を取り入れる試みがなされている．さらには工学的に用いようとする傾向が近年では見られ，安藤¹⁾は国土・都市政策などに幸福度を適用することを検討している．菊澤ら²⁾は定住性に与える因子として幸福度が影響していることを示した．また，高橋ら³⁾は森林に関わる主観的幸福度に影響を及ぼす要因の実証的検討をおこなっている．このように様々な点から幸福度を工学的に用い，その可能性を広げてきてはいる．しかし，既往研究では幸福度を目的変数と置いた場合の説明変数の一つとしてよく用いられる「自然環境」であるが，自然環境が実際にどのような自然を表し，視覚的，景観的にどのような違いがあるのかが明記されている研究はまだ少ない．森林面積を指標の中に入れ検討している研究なども存在しているが，俯瞰景観として用いるので

は実際に定住している人々にとっての影響が少ないのではないかと考えられる．実際に定住している環境や，日常的におこなう行為をする際に影響する視覚的影響を考慮に入れ，幸福度の指標に落とし込む必要がある．

(2) 目的

本研究では人々の考える自然環境とは具体的にどのようなものなのかを抜き出し，詳細に表すことで，幸福度と自然環境との関係性を見出すことを目的としている．

2. 研究方法

(1) アンケート調査

今回の研究ではどのような自然環境が幸福度に影響を与えているのかについて調査・分析していくため，アンケート形式で被験者に調査を行なう．アンケートの項目としては以下の表にまとめる．また個人属性として性別，年齢，居住地域，職業，年収（不満があるかないか）なども同時に調査を行う．

表-1 質問項目と回答

質問項目		回答方法
1	あなたは自然があると幸福ですか？	5段階評価 (とても幸福, 幸福, どちらでもない, 不幸, とても不幸)
2	あなたが考える自然をイメージしてください. 思い浮かべたイメージと最も近い画像を選択してください.	選択肢13個(複数選択可)
3	あなたは都会にいと幸福ですか？	5段階評価 (とても幸福, 幸福, どちらでもない, 不幸, とても不幸)
4	あなたが考える都会をイメージしてください. 思い浮かべたイメージと最も近い画像を選択してください.	選択肢15個(複数選択可)
5	あなたがいいと感じる場所はどんなところですか？	選択肢9個(複数選択可)「人の話し声が聞こえる場所, 車の音が聞こえる場所, 紙をめくる音が聞こえる場所, 空調機の音が聞こえる場所, 雨の音が聞こえる場所, 物が落ちた音が聞こえる場所, 音のない場所, 賑わっている音が聞こえる場所」

6	あなたのいいと思う場所はどんなところですか？	選択肢4個(複数回答可)「地域コミュニティがある場所, 相談相手が近くにいる場所, 地域行事が頻繁に行われている場所, 地域活性化に意欲的な場所」
---	------------------------	---

表-2 被験者に提示した自然の画像一覧

			
画像 1	画像 2	画像 3	画像 4
			
画像 5	画像 6	画像 7	画像 8
			
画像 9	画像 10	画像 11	画像 12
			
画像 13			

表-3 被験者に提示した都会の画像一覧

			
画像 1	画像 2	画像 3	画像 4
			
画像 5	画像 6	画像 7	画像 8
			
画像 9	画像 10	画像 11	画像 12
			
画像 13	画像 14	画像 15	

2. 分析

(2) 分析結果

ここではアンケート調査から得られた単純集計を示す。まず、表4では被験者がイメージした自然に最も近い画像とその画像を選択した人数の集計を記している。さらに表5では被験者がイメージした都会に最も近い画像とその画像を選択した人数の集計を記している。その次の表6では質問項目5の選択肢に対応する人数を集計し、表に記している。それぞれ降順に並べている。

表-4 質問項目2とその集計

画像5	13
画像9	3
画像3	2
画像2	2
画像1	1
画像4	1
画像13	1
画像12	1

表-5 質問項目4とその集計

画像4	7
画像1	4
画像3	4
画像2	2
画像5	1
画像12	1
画像15	1
画像11	1
画像7	1

表-6 質問項目5とその集計

鳥のさえずりが聞こえる場所	20
人の話し声が聞こえる場所	9

雨の音が聞こえる場所	9
賑わっている音が聞こえる場所	7
紙をめくる音が聞こえる場所	5
音のない場所	1

(3) 属性との関係

これらの質問項目と属性データである居住地別に相関関係の有無を分析していく。表7、図1では質問項目1の自然がある際に幸福度がどの程度かという質問と比較している。今回は山間部のサンプル数が一人だけになってしまったため山間部のデータは100%になっている。同様に質問項目2と4も居住地との関係を表8、9、図2、3に示した。さらに質問項目5と居住地との関係性も以下の表11、図5に示す。

表-7 居住地データと質問項目1の関係

	とても幸福	幸福	どちらでもない
都心部	3	4	2
近郊部	6	7	0
山間部	0	1	0

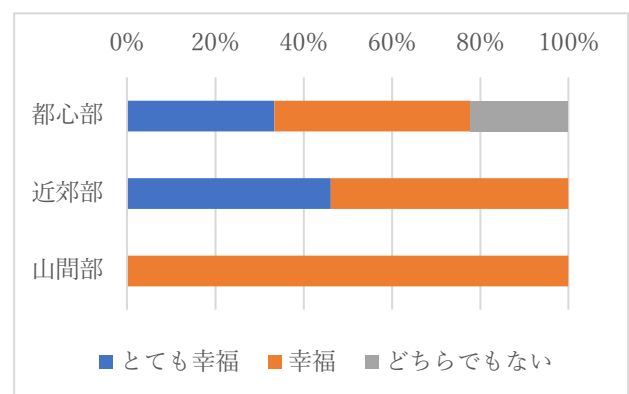


図-1 居住地データと質問項目1の関係

表-8 居住地データと質問項目3の関係

	とても幸福	幸福	どちらでもない
都心部	1	6	2
近郊部	0	5	8

山間部	0	0	1
-----	---	---	---

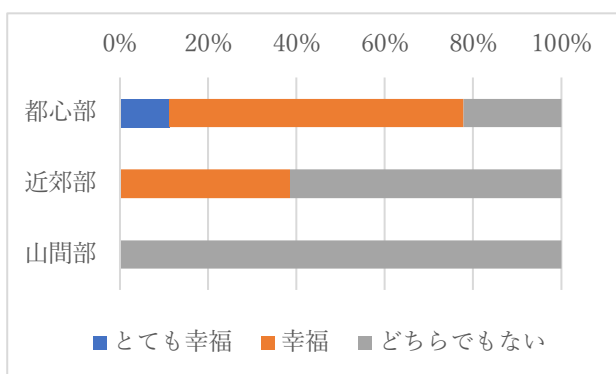


図-2 居住地データと質問項目3の関係

表-9 居住地データと質問項目2の関係

	画像1	画像2	画像3	画像4	画像5	画像9	画像12	画像13
都心部	0	1	2	1	2	1	1	1
近郊部	1	1	0	0	10	1	0	0
山間部	0	0	0	0	1	0	0	0

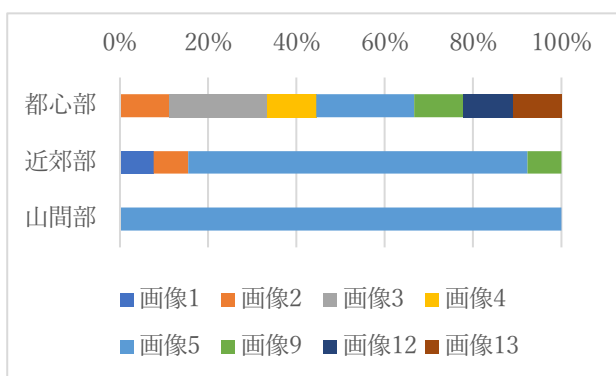


図-3 居住地データと質問項目2の関係

表-10 居住地データと質問項目4の関係

	画像1	画像2	画像3	画像4	画像5	画像9	画像12	画像13
都心部	0	1	2	1	2	1	1	1
近郊部	1	1	0	0	10	1	0	0
山間部	0	0	0	0	1	0	0	0

	1	2	3	4	5	7	11	12	15
都心部	2	0	2	2	1	1	0	0	1
近郊部	2	4	2	3	0	0	1	1	0
山間部	0	0	0	1	0	0	0	0	0

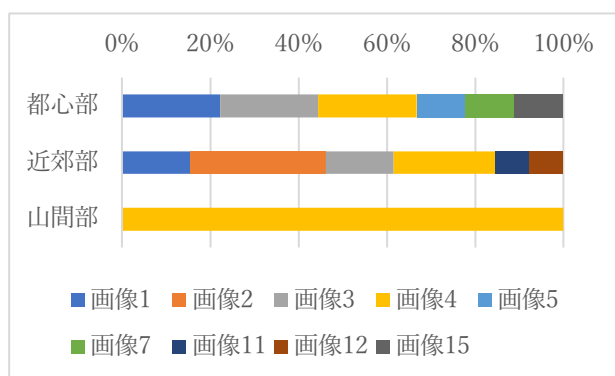


図-4 居住地データと質問項目4の関係

(4) 幸福度

次に幸福度と画像の関係性を以下の表11, 12, 図5, 6に示す. 表11と図5からは自然がある際の幸福度を縦軸, 選んだ画像を横軸に表している. 表12と図6も同様に都市にいる際の幸福度を縦軸, 選択した画像を横軸に表記した.

表-11 質問項目1, 2の関係

	自然画像1	自然画像2	自然画像3	自然画像4	自然画像5	自然画像9	自然画像12	自然画像13
とても幸福	1	1	1	0	5	0	1	0

福								
幸 福	0	1	1	1	6	2	0	1
ど ち ら で も な い	0	0	0	0	2	1	0	0

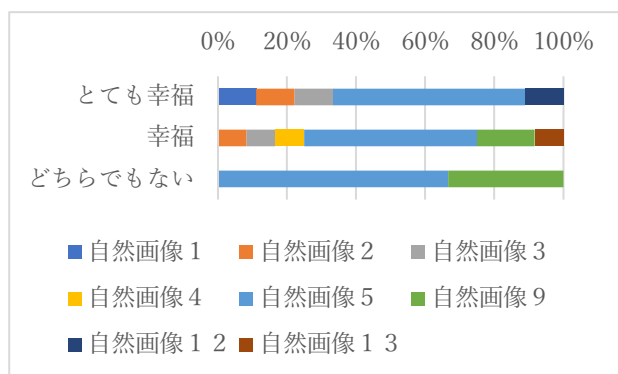


図-5 質問項目 1, 2 の関係

表-12 質問項目 3, 4 の関係

	都会画像 1	都会画像 2	都会画像 3	都会画像 4	都会画像 5	都会画像 7	都会画像 11	都会画像 12	都会画像 15
とても幸福	1	0	0	0	0	0	0	0	0
幸福	1	2	1	3	1	1	1	0	1
どちらでもない	2	2	3	4	0	0	0	1	0

な い									
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

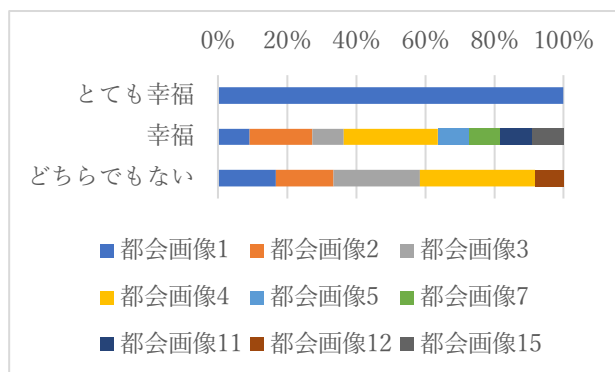


図-6 質問項目 3, 4 の関係

3. 考察

視覚と聴覚に関連する分析結果から、居住地が都心部から離れるにつれて都会を幸福だと感じなくなるという傾向があると言える。山間部に住む人にとって自然とはより身近なものであり、それだけ自然に対して恩恵を日常的に感じている可能性がある。また、被験者が思い描く自然は居住地が異なることで大きく異なっている。近郊に居住している被験者は選択肢 5 の画像を選ぶ被験者が圧倒的に多いのに対し、都心部に住む被験者はそれぞれ自然に対するイメージが異なることが分かる。つまり近郊の居住者は、比較的人の手を離れた自然を自然と感じるのに対し、都心部に住む被験者は、自然があると幸福だと感じる際には自分の家に観葉植物が置いてあったり、公園や芝生が身近にあるだけで幸福度が向上する可能性がある。

4. おわりに

本研究では幸福度と自然環境との具体的な関係性について調査した。その結果、被験者の居住地によって自然に対して様々なイメージを持ちこれが幸福度に影響を与えることがわかった。今後は、都心部、近郊、山間部に住む被験者のサンプル数を増加させ、より具体的な根拠があげられるよう検討していった。

い.

参考文献

- 1) 安藤章：国土・都市政策における「幸福」指標の適用可能性に関する実証研究，日本都市計画学会都市計画学論文集, Vol.49 No.3, 2014
- 2) 菊澤育代, 近藤加奈子：幸福度が定住意向に与える影響に関する研究，日本建築学会計画系論文集, Vol84, No.755, pp129-36, 2019
- 3) 高橋卓也, 内田由紀子, 石橋弘之, 奥田昇，森林に関わる主観度幸福度に影響を及ぼす要因の実証的検討-滋賀県野洲川上流域を対象として-, 日林誌, pp122-133, 2021